

表題：第9回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年1月23日（木曜日） 18時から20時
- 2 場 所 町民会館第3会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略
榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、中沢清、
野本多恵子
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
（事務局）
住民部長田辺健、地域課長古川実、地域課地域係長友野裕之、
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 近藤隆幸、清水久央
- 5 議 題 1 （仮称）瑞穂町協働宣言について
2 協働宣言の実現について
3 その他
- 6 配付資料 1 次第
2 第8回瑞穂町の協働を考える会議まとめ
3 （仮称）瑞穂町協働宣言
4 協働宣言の実現について
- 7 開会
古宮座長
- 8 議題1 （仮称）瑞穂町協働宣言について
資料の確認及び説明
友野係長から
・ 資料の確認及び説明

【副題に関する議論】

- ・ 事務局の修正案も誰が聞いても分かりやすい言葉を使っていてとても良い。
- ・ いろんな人たちが関わりやすいような言葉の使い方になっています。
- ・ みんなが自然と読んで気持ちの中に入ってくるような文となっています。
- ・ 副題は五七五調が良いのではないのでしょうか。
- ・ 「手をとって みんなで楽しむ 町づくり」は中が8文字ですが、俳句の方式に照らすと、全体に締まりがなくなってしまう感じがします。
- ・ 本文の下から3行目は「私たちは皆で考え」となっています。副題の「みんなで」を「皆で」とすると全体が締まる感じがしますし、中も7文字となって響きが良いと思います。

- ・ 前回の会議の中では取り敢えず候補を決め、出た意見は今後検討していく中で再度見ていったときに見直すということでした。
- ・ 副題の「みんな」は平仮名のままでも良いのではないのでしょうか。
- ・ 漢字にするか平仮名にするか決めてしまった方が良いものか、それともここで決める必要はないのでしょうか。
- ・ 前回の会議で4つの候補のうちから多数決して多かったものを2つ残しました。今後、最終決定するにあたって満場一致は難しいができるだけ努力はしたいと思います。

事務局より

- ・ 協働宣言は町長が宣言するようになりますが、まだ事務局は具体的な協働宣言案の内容などを報告していません。あまりに決まり過ぎているよりかは、いくつか候補があった方が動かしやすいのではないのでしょうか。
- ・ 個人的な意見としては、副題はひねくれているといいますか、あまり語呂が良いよりかは4番目の「住み続けたい町 みんなの手で」が良いのではないのでしょうか。

結 論

- ・ 文字を漢字または平仮名にすることについてはここでは決定せず、事務局で記録しておいて変えるときにまとめて検討することとしました。

【方針の5つの標題に関する議論】

- ・ 個人的にはこのままで良いのではないのでしょうか。
- ・ 今のままの方が耳に入りやすく普段使っている感じではないのでしょうか。
- ・ 2番目を「参加する・やってみる」とするとしたとの統一感があります。
- ・ 文章の感じが違うのもありなのではないのでしょうか。ちょっと関わってみようかという軽い感じからのストーリー性があるように見えます。最初は緩い感じで関わってきたら最終的にはきちっとしているような感じで、敢えて崩れている方が引っかけやすいのではないのでしょうか。
- ・ 最初から「何々する」となっていると硬い感じがしますが、きちっとした方が良いのであればきちっとした方が良いと思います。
- ・ 役所の出す文章と一般的に活動している中で出すものとの感覚のズレもひとつにあると思います。
- ・ 「今まで行政はこれでやってきたので、これでいかなければだめだ。」という考え方であればそれは進歩がない気がしますし、ただ、どこに出しても恥ずかしくないようにしなければなりません。
- ・ 地域の特性などもあり、自治体によって協働の中身が変わってくる部分もあり

ますので、そこは自信を持って「これでいく。」というものがあれば良いと思います。ただ、あまりに形式にとらわれ過ぎ、今まで会議で検討してきたことが飛んでしまうようなことではもったいないと思います。

- ・面白くないかもしれませんが、「何々 動詞」のような形で統一した方が良いかと思います。
- ・ストーリー性があるって引っ掛かりやすいのが良いのかと思います。引っ掛かるためには「これは何だ。」というのも良いのではないのでしょうか。
- ・いちばん上の「人と人とのつながり」というのは流れが良いと思います。
- ・同じようなスタイルの見出しの方が良いとは思いますが、ただこうして見ている部分では分かり易いと思います。
- ・注目してもらいやすいように、例えば、一番上から「人」、2番目は「活」、3番目は「楽」、4番目は「育」、5番目は「伝」とか「和」のように、漢字1文字とその説明という表現もありなのではないのでしょうか。

事務局より

- ・言葉に統一性がないように思えます。例えば、1つ目が「人と人とのつながり」という状態を表していますが、2つ目が「やってみよう」、3つ目が「楽しさ」、4つ目が「育てる」となっていて統一性がないです。
- ・1番目も「人と人がつながる」とした方が統一感があります。
- ・意見がまとまれば良いですが、まとまらなければ持ち帰ってまとめることはできません。現状ではあっちこっち向いているような気がしています。
- ・形として整えることは可能ですし、体言止めや用言止めなどのアレンジはできます。
- ・漢字1文字で表してつなげたら熟語になっても面白いと思いました。標題なので統一性があった方が良いと思います。いくつか作ってみて改めて会議で示しても良いです。
- ・漢字1文字などを用いると軟らかさと硬さがくつつくのではないのでしょうか。答えはないので、1回で決めることなく、色々な意見をまとめて良いものにしていければ良いです。
- ・役所の考え方が硬く、皆さんが軟らかいという部分で「新たな出会い・育てる」というのもすんなり読めない感じで良いです。1番目の「人と人とのつながり」だとあたりまえすぎて圧倒されてしまう部分もあると思いました。ただ、5つの語調だけは整えた方が良いと思いました。
- ・何パターンか作っても良いと思います。

結 論

- ・注意を引くようなものや遊び心などの要素や語調など、会議で出た指摘事項をもとに修正することとしました。

アドバイザーからの講評

- ・ 何が良いというものではなく、多くの人が共感できる言わばセンスのようなものです。
- ・ テーマを上げて中点を入れて、その後にこうしようという提案を入れるなどもあります。例えば、「新たな出会い・育てる」と通すか、通さない方が読んでもらえるか、そこの議論は必要になるのではないのでしょうか。
- ・ 呼び掛け型で揃えるのであれば、1番目は「人と人とがつながろう」とか「参加し行動しよう」などがあり得えます。宣言型だと「人 人と人とのつながりを築く」、「活 地域の活動に参加する」、「楽 生きがいとやりがいを楽しむ」、「育 新たな出会いを育てる」、「和 知識を分け合い和を広げる」となりますが、これは結構つまらない感じがします。「読めば分かるよ。」と感じられるかもしれません。

議題2 協働宣言の実現について

友野係長から

- ・ 資料の確認及び説明

ご意見

- ・ 既に協働事業として行われているものが多い中で、今やっている人が宣言を見たときに「それが何なの。」ということにはならないのでしょうか。やっている人たちにとってもプラスになるようなものにしていかなければならないと思います。
- ・ 実現をしていこうという話の中で、どう私たちは関わっていくかを考える必要があると思います。
- ・ 5項目に付帯するものをまた作っていくのでしょうか。具体的な実施項目は宣言とは別なののでしょうか。
- ・ この会議が協働事業をやる訳ではありません。協働事業が推進するような形のものを作っていくことです。どんなことを協働で進められるかということになります。
- ・ 誰が参加できるかといいますか、例えば「人と人とのつながりのための協働はこういうグループがあります。歴史をつなぐのであれば歴史をつなぐというのはこういうことです。また、住みやすい町を作るのにできることはこういうことです。」という大まかなテーマを作り、それができれば具体的な話が町民の中に出てくるのではないのでしょうか。
- ・ 具体的なグループが分けてあれば、何が当てはまるのか分かりやすいのではないのでしょうか。

- ・ 実際に活動されている方がこれを見て白けてしまうことがないように、今までやってきた人に対して成果を見せることも実現につながるのではないのでしょうか。
- ・ 見えないところでもいろんな人たちがやってきたことがあるので、それをきちんと伝えたり見せたりすることが必要なのではないのでしょうか。
- ・ 地域で孤立している人たちが立ち寄れる場所を町の方で準備してもらえれば、そこに行って一緒に話しをしたりお茶を飲んだりできるのではないかと考えています。独りで寂しくしているのではなく、また、歳をとって「自分は何も役に立たないんだ」という人生を送るのではなく、話したり笑ったりしながら老後を過ごしてもらいたいという思いがありますので、協働の中で行政と住民の間でできたらと思っています。
- ・ 住みよい町づくりがいちばんの目的かと思います。
- ・ 以前この会議でワークショップを行い、皆さんが紙に書いたものについて具体的にどういう関わり合いを持たせれば町づくりにつなげられるかになると思います。
- ・ 町の委員会や協議会などはすべて私たちの生活に関わっている訳で、それぞれの動きをどうやって整理したりまとめたりするか、どうすれば一番効率良く民意が伝わって町づくりに結びつけられるかであると思います。システムについての提言や提案を作ったり、今の活動にバックアップしていけるようになれば協働も実を結ぶのではないのでしょうか。
- ・ 町の委員会というのはどのようなものがあるのか、また現在どのような形で町づくりをしていくのでしょうか。これからは「財政も厳しいので皆さんの知恵も借りなければならぬ。」という形にしていかなければならないと思います。
- ・ 今個人や町が行っていることを知り、ワークショップで皆さんが書き出したものに当てはめ、いかにして組み立ててあげられるかであると思います。事務局から町のデータや説明をもらえればと思います。
- ・ 宣言の実現には、「今まで町があるのはこういうことが行われてきたからだ。」ということをきちんと伝え、理解してもらえそうなものを作ってからではないのでしょうか。実現にあれこれやるのも大事だと思いますが、まずは今までこの町がつながってきたものがあるのであれば、まずはそこをきちんと伝えることが重要だと思います。
- ・ それぞれ個人単位でやってきたことがあると思います。そこをきちんと拾っていくことが大事であると思います。あまり知られていないがすごく重要なことをやっていて、協働している人もいるかもしれないので、そこから新しいことも入れていけますし、具体的にこういうことができるということが分かれば、つながっていくと思います。
- ・ 軽い気持ちで協働をやるのもありだと思いますが最終的には軽いだけではなく、意味とか意義を分かっている上でやれば継続してやっていけると思います。

- ・ ボランティアは言葉よりも楽しみから入る人が多いので、イベントなどを実現までにするのも良いのではないのでしょうか。わざわざ協働と謳わなくても協働のエッセンスが入ったものを作ったりやったりしていくのも同時に必要ではないかと思います。そのうちの何割か「これが協働なのか。」ということを知っていただければ良いと思います。
- ・ 職員の意識もすごく大きいと思います。現在なくても今後出てくる可能性もあります。行政の方で、「協働で今後こういうことを住民と一緒にやっていかなければならない。」ということを実践的に考えてもらったものを提示してもらうことや、この会議で一緒にお話を聞いてもらうことが一番ではないでしょうか。今やっている事業を提示してもらいたいのと、今後きっと必要になるだろうというものも出てくるのであれば伺いたいと思います。
- ・ 回廊計画でそのエリアを綺麗にしようということであれば、その地域の町内会の協力ができないということも聞きました。そうすると具体的に住民の方と行政の担当の方が一緒に考え、「何ができるか。」ということが今後出てくると思います。
- ・ 具体的にいろんなことを上げていくだけではなく、どう周知していくかという方策を考えないと誰も理解できないことになってしまうと思います。「宣言を出しました。」で終わってしまわないよう啓発などの方策を考えていった方が良いと思います。
- ・ 住民が頑張っていることについて、「これが一緒に動いてくれて協働だったら良い。」と思っている人がいると思います。そういうのも考えていかなければならないと思います。
- ・ 今やっている人のことや見えないところでやっている人たちのことをいかに拾い上げ、協働につなげていくかであると思います。
- ・ 遊びも兼ねたプログラムを作れば、子どもが家に帰って必ず親に話をすると思いますのでそういう進め方も作らなければならないと思います。
- ・ 現時点で協働と思われることをやっているのであれば、そういった団体や人たちに「これから協働ということをやっていくが、あなたたちもやっている。」として進めた方が良いと思いますし、そこから何か発信してもらったり、動かしてもらおう仕組みづくりに協力してもらおうことも必要なのではないのでしょうか。
- ・ 現在やっている協働、こうであればいいなという草の根的に動いている協働などもあります。
- ・ 職員の方も拾っていく必要があると思います。実際、町の方でお金が出るとか一緒にできるとかは別にして、今それが協働につながるのではないかということは拾っていく必要はあるのかと思います。
- ・ 協働していなかったらこの町は成り立っていないと思いますし、協働になり得るようなことをやっている人たちはたくさんいると思います。

- いろんな議論をしていますが、今後進めていく意味で少なくともこのメンバーの中で「これが現在実施している協働であろう。」と「こういう新しいことも協働ではないか。」というのもそれぞれ書き上げ、それを仕分けし、議論をしていくと進むのではないのでしょうか。おそらく個人の生活の中で大きいこと小さいことたくさんあると思います。
- 行政の方で協働に関わる委員会や組織、または自分たちだけにしか分からないようなものはお互いにどんどん出していかないと分からないので、出し合うということは可能だと思います。
- 現状を知るといことは何をすればいいのかというところにつながっていくと思います。
- 町の長期総合計画は皆さんが望む町の姿を進めているものでありますが、それは本当に望んでいるものが入っているかは分かりませんが、取り敢えずは集約された意見でより良い町づくりということで進めている訳です。それは皆さんに良い生活環境を届ける町の姿としてやっている訳で、皆さんが何をしなければいけないのかというのは自ずから決まってくるのではないかと思います。今までのやり方では実現不可能だということもあるかもしれませんが、そこは皆さんの力を借りてやっていこうという体制が組めれば達成できるのではないのかという観点から見れば協働も整理しやすいのではないのでしょうか。
- 町の動きを知って、そこに存在する問題があれば説明してもらおうことなどができれば、なお協働の理解度が増すのではないのでしょうか。

事務局より

- 第1回目の会議でお示ししたこの会議の要綱には所掌事項が載っていて、1つ目が協働宣言の策定、2つ目には協働宣言の実現に関する事となっています。宣言案の策定の方は、先程まで議論したように形が見えつつある中で、ある程度目途がついてきたときに所掌事項の2つ目に関する事も議論していきたいと思っています。
- この会議は「宣言案」を作成するが「宣言」を作成する訳ではありません。まずは案を作ってくださいということです。事務局の中では固めていませんが、あと数か月後にまとめて決定をしてパブコメ等を経て宣言を出す形になります。
- 宣言の実現に関する事というのは、実際に宣言が出て具体的にどのようにして進めるか、住民の方からすればどのようにしていくのかを議論していただいて、任期満了までにひとつの形として実現の提言などをしていただいても良いのではないのでしょうか。
- 宣言文の5項目の下に具体的なものが出てくる訳ではありませんが、最終的にはひとつの案として、来年の3月くらいまでにこの会議としては5項目を達成するためにはこういうことに留意したらどうかというものを出示してもらって

も良いかと思えます。

- ・ この会議で実施項目として提言的なものをもらった方が良いのではないのでしょうか。このような形で議論してきたので町に対して提言をするという形です。
- ・ 職員についてグループ分けして、この会議もグループ分けしてお互い話し合いをするなどしても良いと思えます。
- ・ 町が行っている協働事業や把握している事業はほんの一部です。委員の皆さんはいろいろなことをされているので、やっていなくても知っているという情報でも事務局にいただければと思います。町の情報などは機会があれば提供できます。
- ・ 現状を知るのと可能性のある協働事業があればそれをプラスして皆さんから事務局に出してもらおうとか町の方でもどうなっているのという部分では町の実態もお伝えすることができます。

アドバイザーからの講評

- ・ 議論されていないのは、「私たちはお年寄りに声を掛けて出会うチャンスを作ったり、運営は行うが場所がない。」となったときに協働事業にできるかという方法論で各自治体がとても悩んでいます。
- ・ いちばん多いタイプは、提案させるような形です。協働したいと思っている人たちが来て提案をします。それに対して行政は持ち帰り、内部で話し合い、行政が答えます。それを公開でやろうということが増えています。
- ・ 今まででいうと「協働しましょう。」というのは行政の側が決定しています。それでは納得いかないのが、苦肉の策で住民たちの代表が選定委員になったりしますが、そこにこの会議の委員の方が出て行って良いのです。例えば、こういうことをやるつもりですが行政の協力が必要です、場合によっては運営するためのお金が必要だという場合があります。場所が必要だという場合、お年寄りに声をかけるのに情報が必要ですがお年寄りの情報も取りにくくなっていますので行政が協力しましょう、お金を出しましょう、または人を出しましょうという形で応じます。それを選定委員たる住民が公開の場で聞いていて考えたりするのですが、この運営も大変なようです。
- ・ 何が大変かという、行政から「活動結果を報告してください」となるのです。
- ・ 1年経ったら、その人たちに発表の機会を保証してこんな活動をしましたということで広がっていくということも可能です。そのような手続条例を作り、公表して運営していくということでないとしても行政側の都合だけで、人やお金を出す出さないの問題となり、住民側の不満と不明瞭が出てしまいます。それだといつまで経っても協働ではなく、行政からいただくという関係になってしまうので工夫が大変なようです。
- ・ 宣言を出した後にこの会議で提言なりするときには、その手続についてきちんと作らないと啓発活動をやって協働のまちづくりをしましょうと言ったとき

に来ている方が「どうやったら協働の事業になるのか。」という気持ちを持つと思います。そのときに何かしら手続き的なものの構想を持っていた方が質問されたときに答えやすいのではないのでしょうか。そうすればたくさん名乗り出てくる人が出てくるのではないかと思います。

- ・ 個人的には好みませんが、職員も「これは協働した方が良い。」と思うものについて、行政から協働しようというのではなく、提案するグループを作るとか援助するとかという形で町に上げさせてくるというのもあり得るかもしれません。

結 論

- ・ 協働宣言を実現するための手段として「提言」という形も含め、この会議の中で議論していくこととしました。
- ・ 町からも協働に関すると思われる委員会等の組織などの情報を出していくこととしました。
- ・ 各委員が関わっているあるいは関わったことのある協働やこういったものが協働ではないかということなどを各自書き出して事務局に提出することとしました。

議題3 その他

事務局から

- ・ 次回会議の日程調整を提案しました。